

## 大学間の垣根を越え、気楽に交流できる機会を増やし、 組合活動を活性化するために職員運動をすすめます

職員がおかれている状況は、ますます厳しくなっています。職場を取り巻く環境については、多忙化が進行しました。職員減員などにより、チーム（係や課内）としては当然のこと、他部署との協力体制を組むことも困難になってきました。雇用形態の多様化もすすみ、OJTによる職員の力量向上が難しくなってきました。民間企業でもみられた先輩職員が、新人の教育係を務めるということも困難になってきた現状があります。また、大学間の情報共有が進まず、さまざまな大学で起きている労使紛争や職場が抱える問題を自身の職場の問題解決に活かしていません。

2012年9月28日、東海私大教連は、愛知大学教職員組合の協力を得て、第2回職員交流会・懇談会を愛知大学（名古屋キャンパス ささしま）で開催しました。この企画には、8単組から30名以上が参加し、盛況な交流会となりました。また、当日は、和やかな雰囲気、時が過ぎるのも忘れ、職員同士の交流が深められました。

この取り組みを通して、私たちは、職員固有の要求があることに確信しました。それは、大学間の垣根を乗り越え、気楽に交流できる機会を増やすことです。

今後も、職員同士が堅苦しくなく、気軽に交流できる場を積極的に設け、組合活動をより活性化するために職員運動をすすめることを決意します。

以上、決議する。

2013年3月16日

東海私大教連第40回大会